Management Club Report

Sept.2016/Vol.165

Monthly Opinion ≪アウトサイダー的思考の重要性≫

今年のテーマは『輝かせ、そして輝け！』です。言うは易く行うは難しで、意気込みは分かるもののどうやったら輝けるのかという具体策になると答を見出すことは中々容易なことではありません。

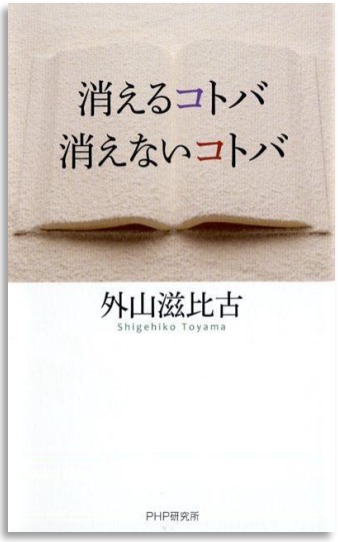
先月号もこれと同じ言葉で書き出しました。今月は、いよいよ具体策について書かなくてはなりません。７月号では、歯科医療活動の目標を小さくまとめることを佳しとせず「女性が働きやすい社会の一翼を担う歯科医院」や「一億総活躍社会をサポートする歯科医院」といった国家的スローガンに沿った目標にすべきと述べました。

そして８月号では、医科歯科連携において「人の生命を生かす」のが医科の役割ならば「人を輝かせながら生かす」ことにこそ歯科の真価があると訴えてきました。

今月はその流れに沿い、少子高齢社会という我が国の現状と将来に合わせて各歯科医院で具体的対応策を立てる上でのヒントになるような基本形を考えてみました。

1 インサイダー的思考とアウトサイダー的思考

93歳驚愕のエッセイストからの提言



外山滋比古（とやま・しげひこ）というエッセイストをご存知でしょうか。私は今年の７月に **PHP 研究所**から出版されたこの方の最新刊『**消えるコトバ・消えないコトバ**』を読むまで知りませんでしたが、その評論や随筆が国語の教科書や入学試験問題に最も多く使われる文筆家の一人として有名だそうです。

専門は英文学とのことですが、その学究は言語学、修辞学と広汎に亘り、特に、幼児・子供に対する“ことば”による情操教育や知育について力を注ぎ、その重要性についての提言意欲は 93 歳になった今日も衰えることを知らず、今尚訴え続けているというお茶の水女子大学名誉教授の肩書きを持つ先生です。

現代では百歳超の長寿を誇る人の数が６万人を超え